

教員氏名：周東 聡子（保育学科／教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

保育学科に所属し、主に、教員免許と保育士資格の両方で重要になる情報科目の基礎を扱う授業や保育現場での ICT の活用について実践的に学ぶ講義を担当している。また、2年間の総まとめとなる「保育教職実践演習」もオムニバスで担当している。さらに学生指導の基盤に位置付けられている「ゼミナール」を担当し、1年生と2年生の担任をしている。

現代コミュニケーション学科では、プレゼンテーションの知識や技能を習得するための「プレゼンテーション演習」、情報社会における情報リテラシーを身につけるための「メディアリテラシー」、コミュニケーションについての基礎的な理論に基づく知識と技能を身につけるための「コミュニケーション演習Ⅱ」を担当している。

また両学科の共通基礎科目として「情報メディア論」を担当していたが、カリキュラムの変更に伴い、令和8年度からは「AIと社会」を担当している。

さらに育英大学・育英短期大学のクラブ・サークル活動においては、茶華道部顧問として学生の指導を行っている。

現在の主な担当科目一覧		
育英短期大学	保育学科	情報基礎、保育者のための情報技術、キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ、保育教職実践演習（オムニバス）
	現コミ学科	情報基礎、プレゼンテーション演習、メディアリテラシー、コミュニケーション演習Ⅱ
	両学科共通	AIと社会

2. 教育の理念（なぜやっているか）

専門分野を研究するものとしての理念とその背景や経験

私は、社会情報学を専門としており、その中でも情報リテラシー教育と記録情報学を中心に研究を行っている。

情報化社会の進展に伴い、情報リテラシー教育の必要性が広く求められてきていることは必然である。ここでいう情報リテラシーとは、単なるコンピュータを使いこなせる能力

のことではなく、情報化社会や ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識を学び、生きる力として、自分にとって必要な情報を主体的に収集・選択できる能力、情報を処理加工できる能力、新しい付加価値の付いた情報を創造・発信できる能力のことである。

学生にとって、この情報リテラシーは、大学での学修や学生生活、進路決定ならびに将来の社会生活においても必要不可欠な能力である。これからの情報社会において自分の力を十分に発揮できる人材育成のために教育を行っている。

特に保育学科の学生にはこれからの子どもたちの生きる力として、情報リテラシーの土台となる力を育める人材となることを期待したい。また、現代コミュニケーション学科の学生は、職場での即戦力になれるように ICT を使いこなせる、コミュニケーション能力の高い人材となってほしい。

学生の学修に対する理念

私が担当する基礎科目は教員免許や保育士資格の取得のために必須の科目となっている。学生は高等学校までの課程において、ある程度の情報リテラシーを習得して入学してきているが、自分自身の情報リテラシーを確実なものとするために磨きをかけ、ICT や情報社会についての理解や知識を深めていくことができるよう講義内容を工夫し、わかりやすい楽しい授業を実践していきたい。

社会における大学教育の位置付け

大学での教育は、自分自身に社会で生きるために必要不可欠な知識や技術等を身に付けるために常に目標を持って主体的に学ぶ場であると考えます。また、社会人としての重要なスキルであるコミュニケーション能力に磨きをかける場でもあり、大学での学修以外にもサークル活動やボランティア、インターンシップ等を通して共に大学生活を享受する仲間づくりができる時間であるといえる。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

具体的な教育上の実践や教材の工夫

シラバスに明示した教育内容をわかりやすく理解し、目標を達成できるようにわかりやすく、楽しい授業を展開するように講義内容を工夫している。

- ① 教科書を指定し、事前事後学修について明確な指示をしている。また、講義ではパ

ワーポイントを用いて講義内容を説明し、実技を行う際には一人一人の進捗状況を確認し、できるだけわからないままにならないように丁寧に指導している。

② 講義を欠席した学生に対しては次回の講義までに自習をしてくるように促し、オフィスアワー等を活用し講義内容の説明を行っている。

学生との関係構築のための工夫や配慮

講義内容に関する質問は、メールを利用していつでも受け付けて対応している。ただ、学生の質問内容によってはメールで解決できない場合が多く、その場合は直接時間を取って指導している。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

学生の学修成果

私が担当している講義では最終授業で、この科目の履修を通して自分自身がどのような目標を達成できたのか、レポート提出を課し、一人一人の学修成果を確認している。例えば、情報基礎では、自分の情報リテラシーがどのように変化したのか、今後どのように活用していきたいかなどを述べてもらい、個人の学修成果を明確にしてもらうことができた。

このように講義を通した学びを可視化する工夫を常に準備することは学修成果の把握にとって重要である。

学生による授業への評価

学生の授業改善アンケートの結果によれば、それぞれの科目の授業内容が理解できたという回答が多く、満足していることがわかる。ただ、実技に関しては一部の学生には講義の進度が速く感じられ大変だったという記述もあり、実技に苦手意識のある学生についてどのように課題に取り組んでいるのか、わかりやすい指導をしていきたい。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

短期的な目標

現在の社会は、変化の激しい予測不能な社会と言われている。その中であって社会人となる学生にとってAI（人工知能）の技術とともに生きることは必須である。

これまでは、いわゆるネットワークや情報について苦手意識を持った学生にも基礎的な情報処理やネットワークのしくみやAIとは何か、理解を深めてもらえるよう教育活動を

引き続き行っていきたい。

まずは、各自が情報に騙されないメディアリテラシーを身に付け、AI を使ってみてどのようなものか試行錯誤させる場を設ける必要がある。

中期的な目標

上記のように学生がこれからの社会で生きる力を身に付けることができるよう、自分が担当している教科において、最新の情報を網羅できるよう常に自分自身の講義がバージョンアップしていけるよう、研究活動にも力を入れていきたい。その研究成果を自身の講義等において教育に役立てたい。

(2026 年 6 月 30 日現在)